

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	みえけんりつよつかちこうとうがっこう				②所在都道府県	三重県
26～30	①学校名	三重県立四日市高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科 1086名	
普通科	363	364	359	—	1086		
⑥研究開発構 想名	「三重・四日市から世界へ！新たな価値を創造する国際人育成プログラム」						
⑦研究開発の 概要	グローバル課題に係る研究，論文作成を通じて，全校体制でグローバル・マインドを育成する。さらに意識の高い生徒は学校設定科目「グローバル・リーダー学」を履修し，海外フィールドワークや他の生徒に対するピア・サポートを通して，グローバル・リーダーとしての資質向上を図る。また，新たに効果測定の数値も開発する。						
⑧研究 開発の 内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校は目指す学校像の第一の柱として「我が国及び国際社会において活躍できる想像力豊かな人材の育成を図る」ことを掲げている。本研究開発は，三重・四日市から社会づくりに貢献し，新たな価値を創造するグローバル・リーダーの育成を目指すとともに，その成果を広く発信することにより，地方の公立高校においてもグローバル・リーダーの育成が可能であることを示し，その範とならんことを目的とする。</p> <p>本校では，主体的に課題に挑戦する力や課題発見・解決力，論理的思考力や行動力を含む「主体性」，人間関係形成能力やコミュニケーション能力を含む「ソーシャル・スキル」，ノブレス・オブリージュの精神や規範意識，幅広い教養等を基礎とした「広い視野」，及び英語により積極的にコミュニケーションする力を含む「英語力」を，卒業時に習得しているべき能力として，それらをバランスよく習得させるとともに，成果の共有により，校内及び地域社会への成果の普及・還元・循環を目指す。そして，<u>地方発グローバル・リーダー育成モデル</u>として全国に発信する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は，平成15年度から4年間，SSHに指定され研究開発に努めた結果，理数教科を中心に指導の改善が大きく進んだが，必ずしも文系も含めた学校全体の成果とはなっていない。また，生徒がチャレンジ精神に欠ける傾向も一部に見られる。</p> <p>そこで，本校では全校生徒がグローバル課題に関して自らテーマを設定し，課題研究，論文の作成等を進めることにより，<u>全校でグローバル教育に取り組んでいる</u>という当事者意識や主体性等を育む。こうした全校取組を基礎として，同時に，特に意識の高い生徒向けのプログラムとして，海外フィールドワークや他の生徒に対するピア・サポート等を実施することにより，これらの生徒が牽引役となって，全生徒による相互研鑽等を通じた相乗効果が生み出されることが期待される。さらには，在学中から世界を意識した実践的活動に取り組むことにより，進路選択に際してもグローバルな視点をもって進学先を決定し継続的に研究を進めることが期待される。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業等への提言・意見交換を行うフォーラム（「四高SGHスーパープレゼンテーション」（仮称））を開催し，生徒自身による企業人等へのプレゼンテーション，意見交換等を通じて，地域社会への研究成果の普及・還元を行う。 ・ 本校において授業公開（3回），研究協議会（1回）を開催するほか，県主催の成果報告会において，成果発表を行い，県内に普及する。 ・ 各取組の概要，成果について，報告書にまとめるとともに，本校や県教育委員会ウェブページに掲載し，全国に発信する。 					

⑧ -2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容 「新たな価値を創造する国際人」の育成に向け、生徒が課題研究として扱う大テーマとしては、「三重・四日市発 グローバル課題への提言」とし、6つの小テーマ、「環境問題」、「教育問題」、「文化比較研究」、「法・福祉・人権問題」、「医療・ボランティア」、「ビジネス問題」を設定する。生徒は個人の興味・関心に応じてそれぞれのテーマを選択し、例えば「環境問題」では「国際的な環境保全」、「教育問題」では「発展途上国の学校の問題点と日本ができる援助」、「法・福祉・人権問題」では「女性の社会進出」などを設定し、テーマごとの連携大学教員・企業人等の指導のもとで研究を進めるほか、研究成果に基づき実践と、これらの効果測定のための尺度の開発を行う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 <u>(A) 総合的な学習の時間『グローバル・マインド』(呼称)</u> 学校が設定する小テーマのもとで、生徒(1・2年)は独自の課題を設定し、大学教授や企業人の指導を受けながら研究論文を作成する。また、1・2年次に取り組んだ3年生がピアサポーターとして参加し、学年を越えて全校生徒参加により、大テーマに関する講演会やテーマ毎の討論会を学校全体の取組として実施する。</p> <p><u>(B) 学校設定教科・科目「グローバル・リーダー学」</u>(主に土曜日の授業として実施) 特に意識の高い生徒は、学校設定科目「グローバル・リーダー学」を選択履修(1・2年)し、海外フィールドワーク(ASEAN交流プログラム)等により、課題研究や論文の深化を図るとともに、他の生徒のピア・サポートを行う。これにより、将来のグローバル・リーダーの掘り起しと、グローバル・リーダーとしての資質能力の向上を図る。また、3年生は1・2年次に取り組んだ成果をもとに、下級生の研究課題等の設定や研究手法についてサポートする。</p> <p><u>(C) グローバル・アクション</u> 課題研究を「研究」に終わらせず、「実践」につなげることを目指したプログラムであり、生徒主体の取組である「SGHサークル」の立ち上げにより、課題研究テーマに即したボランティア活動・提言活動等を行うほか、四高SGHスーパープレゼンテーションにより、生徒が地域の企業人等へプレゼンテーション・意見交換等を行う。また、東南アジア等の外国人を招聘し、英語による交流を実施する。</p> <p><u>(D) 市民性・社会性育成にかかる効果測定</u> 大学と連携し、我が国におけるグローバル・リーダー育成取組にかかる効果測定のための「尺度」(生徒の変容測定)を新たに開発する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 研究開発第1年次の初期プランにおいては、教育課程の特例を用いずに、総合的な学習の時間「グローバル・マインド」と、新設する学校設定教科・科目「グローバル・リーダー学」(土曜日の午後授業を実施)を柱に事業を進める。</p>
⑧ -3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 <u>(A) 英語によるコミュニケーション能力向上の取組(「白熱英語講座」)</u> 外国人教員、大学留学生により、課題研究で扱う6つのテーマ等について、英語による討論を中心とした課外英語授業を実施し、四高SGHスーパープレゼンテーションや三重県教育委員会が主催する発表会にむけて、英語コミュニケーション力等を育成する。</p> <p><u>(B) 市民性・社会性の基礎力育成の取組</u> 円滑な人間関係形成能力を含む生徒のソーシャル・スキル育成のためのプログラムを、大学との連携により、学校全体で実施する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 研究開発第1年次の初期プランにおいては、特に教育課程の特例措置は用いない。</p> <p>(3) <u>グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</u> 三重大学国際交流センターとの連携のもと、県内の外国人留学生と本校生徒との交流や意見交換等の機会を積極的に設けるほか、イオン1%クラブとの連携のもと、ASEAN諸国の高校生との交流を進める。さらに、今後はユネスコスクールに加盟し、そのネットワークによる海外の学校との交流も進める予定。</p>
⑨ そ の 他 特 記 事 項	特になし

ふりがな	みえけんりつよっかいちこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	三重県立四日市高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	972 人
	SGH対象生徒以外:		人	75 人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全生徒の90%が社会貢献活動などに取り組むことを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40 人
	SGH対象生徒以外:		10 人	9 人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外短期留学を強く推進し、1クラス相当人数の留学等を目標とする。(24・25年度は1・2年生実績値)								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		%	42.70%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 進路選択において、地域や家業で活躍することを希望する生徒数を除いた数を目標とする。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	108 人
	SGH対象生徒以外:		人	55 人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 出場は全員を目指し、入賞は全生徒の10%程度を目標とする。(25年度は1・2年生実績値)								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		60%	60%	%	%	%	%
目標設定の考え方: これまで検定受検を強く勧めてはこなかったが、今後は学校全体で取り組むことを目標とする。								
入学後一年間でグローバル・マインド、市民性・社会性が向上したと自己評価した生徒数(1年生)								
f	SGH対象生徒:							324 人
	SGH対象生徒以外:			0 人				
目標設定の考え方: 1年生全体がグローバルマインド向上を目指し、その90%の生徒が向上したと実感することを目標とする。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		45%	50%	%	%	%	%
目標設定の考え方: グローバル社会での活躍を、進学先決定の要素とすることを目標とする。(採択された42大学に限定)								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		0人	2人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 地方における保護者の意識改革と社会の受け入れ体制が伴う必要がある。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 設定できる課題のテーマ数には限りがあるため、現段階では過半数を想定して目標とする。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	172人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学への進学者のうち、60%が留学等を経験することを目標とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方：グローバルリーダー学を履修する生徒(160人想定)の、50%を想定して目標とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	25人	人	人	人	人	人	360人
目標設定の考え方：大学等の研修体験に1・2年生の生徒の50%が参加することを目標とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方：海外留学先及びインターネット等を活用した交流をする連携校を毎年2校ずつ増やすことを目標とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	19人	人	人	人	人	人	57人
目標設定の考え方：大学教員6人(6講座担当者)×9回分で54人分、大テーマの講師3人分の合計数を目標とする。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	13人
目標設定の考え方：外部人材3人(3講座担当者)×4回分で12人分、大テーマの講師1人分の合計数を目標とする。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	0人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方：グローバル・リーダー学を履修した50%の生徒が参加することを目標とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	0人	人	人	人	人	人	9人
目標設定の考え方：地方には、帰国・外国人生徒の編入や留学希望が少ない中、各学年3人の受入れを目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方：授業公開や研究協議3回、県教委主催研究発表会1回、地域フォーラムの開催1回を予定する。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
目標設定の考え方：SGHIに指定され次第すみやかに、外国語によるホームページを整備する予定。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,083	1,086	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							